

山 下 遺 跡

国土交通省九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

熊本県教育委員会

2011.3

山 下 遺 跡

国土交通省九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査



熊本県教育委員会

2011.3

山下道跡遠景（東から）



序 文

熊本県教育委員会では、平成20年7月から9月までの約3ヶ月間、九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、上益城郡御船町大字高木所在の山下遺跡の発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、中世のものと思われる掘立柱建物跡や溝跡、そして、当時の人々が生活の中で使用していた食器類が確認されました。

今回まとめました本報告書が県民の皆様を始め、多くの方々に活用され、文化財保護、ひいては地域の歴史に対する関心と理解を深めていただく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の円滑な実施に御理解と御協力をいただいた地元の方々、並びに関係機関、そして調査に対する指導・助言をいただいた諸先生方に対して厚く御礼申し上げます。

平成23年3月31日

熊本県教育長 山本 隆生

例　　言

- 1 本書は、熊本県上益城郡御船町大字高木字下前田に所在する山下遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 この調査は、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所の依頼を受け、九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う記録保存のための発掘調査として、平成20年度に熊本県教育委員会が実施した。
- 3 現地での発掘調査は、第1章第2節に記す調査担当者が担当し、現地での遺構実測及び写真撮影も各調査担当者が行った。
- 4 現地での4級基準点及びメッシュ杭設置業務は株式会社九州文化財研究所、航空写真撮影業務は九州航空株式会社熊本営業所にそれぞれ委託した。
- 5 遺物の実測及び製図は、梅田亜耶が行った。
- 6 遺物写真撮影は、村田百合子、福浦晶子が行った。
- 7 本文の執筆は、坂井田端志郎が行った。
- 8 本書は、章、節、項で構成しており、各節の直接的な引用・参考文献については、各節末尾に記載した。本書全体に係る主要参考文献については、本文（第4章）末尾に一括して記載した。
- 9 発掘資料の整理は、第1章第2節に記す整理担当者が熊本県文化財資料室（熊本市城南町沈目1667）においてを行い、記録及び遺物の保管も同所で行っている。
- 10 本書の編集は、熊本県教育庁文化課でを行い、坂井田、水上公誠、梅田が担当した。

凡　　例

- 1 調査区座標は、当初日本測地系であったものを、現地調査時に世界測地系（日本測地系2000）に変換したものである。
- 2 本書に記した方位は、座標軸（世界測地系）を基準とした北を指している。また、本書で使用したレベルは、標高である。
- 3 遺構実測図は、現地において遺構配置図1/50、個別遺構図1/20で作成したものを本書では、遺構配置図1/200、個別遺構図1/40の縮尺で掲載している。
- 4 遺物の実測は、原寸でを行い、本書ではそれらを土器実測図1/3、石器実測図1/3の縮尺で掲載している。なお、出土遺物の番号は、通し番号で1番から付している。
- 5 土色は「新版標準土色帖」農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色標監修による。
- 6 発掘遺構は、遺構の種別を示す以下の記号と、一連の番号の組み合わせにより表記した。
S A（樋）、S B（掘立柱建物）、S D（溝）、S K（土坑）

本文目次

卷頭図版

序文

例言・凡例

目次

第1章 序章.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 発掘作業と整理等作業の体制.....	1
第3節 発掘作業の経過.....	2
第2章 遺跡の位置と環境.....	4
第1節 地理的環境.....	4
第2節 歴史的環境.....	4
第3章 調査の方法と成果.....	11
第1節 確認調査の概要.....	11
第2節 調査の方法.....	11
第3節 層序.....	11
第4節 調査の成果.....	15
第4章 総括.....	26
写真図版	
あとがき	
報告書抄録	

挿図目次

第 1 図 山下遺跡と周辺の遺跡（1/50000）.....	6
第 2 図 試掘・確認調査トレント位置図（1/4000）及び土層断面図（1/60）.....	10
第 3 図 調査区グリッド設定図（1/400）.....	12
第 4 図 遺構配置図（1/200）.....	13 ~ 14
第 5 図 捶立柱建物跡平面・断面図（1/40）.....	16
第 6 図 樵跡平面・断面図1（1/40）.....	17
第 7 図 樵跡平面・断面図2（1/40）.....	18
第 8 図 溝状遺構平面・断面図（1/40）.....	19
第 9 図 土坑跡平面・断面図（1/40）.....	20
第10図 遺構内出土遺物実測図（1 / 3）.....	24
第11図 遺構外出土遺物実測図1（1 / 3）.....	24
第12図 遺構外出土遺物実測図2（1 / 3）.....	24

表目次

第1表 山下遺跡周辺遺跡一覧	7
第2表 試掘・確認調査トレンチ概要	11
第3表 挖立柱建物跡計測表	15
第4表 遺物観察表	25

巻頭図版

図版1 山下遺跡遠景（東から）

写真図版

図版1 発掘調査状況（南から北）	図版23 P i t 3 6 出土遺物
図版2 S B 1、S A 5 完掘状況（北東から南西）	図版24 S B 1 出土遺物②
図版3 S K 1・7・8 完掘状況（西から東）	図版25 P i t 4 7 出土遺物②
図版4 S K 2 完掘状況（北から南）	図版26 S K 1 出土遺物②
図版5 S K 3 完掘状況（北西から南東）	図版27 S K 1 3 出土遺物①
図版6 S K 4 完掘状況（北東から南西）	図版28 P i t 6 出土遺物
図版7 S K 5 完掘状況（北東から南西）	図版29 P i t 7 3 出土遺物
図版8 S K 6 完掘状況（北から南）	図版30 S K 1 3 出土遺物②
図版9 S K 9 完掘状況（南西から北東）	図版31 遺構外出土遺物①
図版10 S K 1 0 完掘状況（南西から北東）	図版32 遺構外出土遺物②
図版11 S K 1 1 完掘状況（北西から南東）	図版33 遺構外出土遺物③
図版12 S K 1 2 完掘状況（西から東）	図版34 S B 1 出土遺物③
図版13 調査区完掘状況（南東から北西）	図版35 遺構外出土遺物④
図版14 調査区完掘状況（北西から南東）	図版36 遺構外出土遺物⑤
図版15 調査区完掘状況（北西から南東）	図版37 遺構外出土遺物⑥
図版16 調査区完掘状況（北から南）	図版38 S K 1 3 出土遺物③
図版17 S K 1 出土遺物①	図版39 遺構外出土遺物⑦
図版18 S B 1 出土遺物①	図版40 P i t 5 8 出土遺物
図版19 P i t 4 7 出土遺物①	図版41 S K 1 0 出土遺物
図版20 S K 4 出土遺物	図版42 S K 9 出土遺物
図版21 P i t 5 7 出土遺物	図版43 遺構外出土遺物⑧
図版22 S A 9 出土遺物	図版44 遺構外出土遺物⑨

第1章 序章

第1節 調査に至る経緯

熊本県教育委員会は、九州横断自動車道延岡線建設工事に伴い平成19年2月28日付け国九整熊工事第59号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から「埋蔵文化財の予備調査について（依頼）」の提出を受け、同年12月12日から17日にかけて、山下遺跡とその周辺で埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施した。

試掘・確認調査の結果、埋蔵文化財の存在を確認したため、平成20年1月16日付け教文第2390号「九州横断自動車道延岡線事業に伴う埋蔵文化財試掘調査について（通知）」で熊本河川国道事務所長に対して、調査成果と発掘調査の必要性を通知した。

その後、延岡線建設予定地について、平成20年2月13日付け国九整熊工事第115号で文化財保護法第94条第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の通知について」が熊本河川国道事務所長から御船町教育委員会を経由して熊本県教育委員会に通知された。

熊本県教育委員会では、熊本河川国道事務所と記録保存を目的とした発掘調査の期日等の協議を進めた。平成20年5月19日付け国九整熊工事第9号「埋蔵文化財の発掘調査について（依頼）」で熊本河川国道事務所から発掘調査の依頼と承諾書の提出を受け、平成20年6月16日付け教文第661号で文化財保護法第99条第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を提出し、発掘調査を開始することとした。

記録保存のための発掘調査は、平成20年7月1日に開始し、平成20年9月25日に終了した。調査終了後、平成20年9月30日付け教文第1549号で文化財保護法第100条第1項の規定に基づく「文化財の発見について（通知）」を御船警察署長に提出した。

整理・報告書作成作業は、平成22年4月1日から開始し、平成23年3月31日に終了した。

第2節 発掘作業と整理等作業の体制

1 発掘作業及び整理作業の体制

(1) 予備調査（平成19年度）

調査主体 熊本県教育委員会

調査責任者 梶野 英二（文化課長）

調査総括 江本 直（課長補佐）

高木 正文（課長補佐・文化財調査第一係担当）

調査事務局 宗村 士郎（教育審議員兼課長補佐）

高宮 優美（主幹兼総務係長）、塚原 健一（参事）、高松 克行（主任主事）

調査担当 坂口 圭太郎（参事）

水上 正孝（文化財保護主事）

遠山 宏（非常勤職員）

横田 光智（非常勤職員）

(2) 本調査（平成20年度）

調査主体 熊本県教育委員会

調査責任者 米岡 正治（文化課長）

調査総括 江本 直（課長補佐）

高木 正文（課長補佐・文化財調査第一係担当）

調査事務局 宗村 土郎（教育審議員兼課長補佐）
川上 勝美（主幹兼総務係長）、山田 京子（参事）、高松 克行（主任主事）
調査担当 坂井田 端志郎（主任学芸員）
坂本 亜矢子（非常勤職員）
島浦 健生（非常勤職員）

（3）整理作業（平成 22 年度）

整理主体 熊本県教育委員会
整理責任者 小田 信也（文化課長）
整理総括 木崎 康弘（課長補佐）
 村崎 孝宏（文化財調査第一係長）
 坂田 和弘（参事・文化財資料室長）
整理事務局 宗村 土郎（教育審議員兼課長補佐）
 元嶋 茂（課長補佐・総務係担当）、山田 京子（参事）、松島 英治（主任主事）
整理担当 坂井田 端志郎（主任学芸員）
 水上 公誠（文化財保護主事）
 梅田 亜耶（非常勤職員）

2 謝辞

現地での発掘調査及び整理作業においては、下記の機関及び多くの方々からご指導ご協力をいただきました。ここにそのご芳名を記して深く感謝の意を表します。（順不同、敬称略）

地元の方々、美濃口雅朗、金田一精、林田和人、増田 圭（熊本市教育委員会）、西日本高速道路株式会社熊本高速道路事務所、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所、御船町教育委員会

第3節 発掘作業の経過

発掘調査は、まず調査区南東側から北西側に向かって重機により表土を除去した。調査区への重機の進入路の確保がままならず、0.2mの重機を2台使用して行った。その後、株式会社九州文化財研究所に委託し、4級基準点と調査区内にメッッシュ杭を設置した。メッッシュ杭の設定区画は5 m × 5 mである。

過去の造成や耕作により遺物包含層は残っておらず、表土除去終了後、直ちに遺構検出作業を行った。検出作業終了後、簡易な遺構配置図を作成し、順次遺構掘削を行い、平面図・断面図の作成作業、遺物取り上げ、写真撮影を行った。グリッドは東西方向（西から東へ）をアルファベット、南北方向（北から南へ）を数字で示した。なお、平面直角座標は、日本測地系の数値を世界測地系に変換し使用している。

発掘調査は、平成 20 年 7 月より開始し、平成 20 年 9 月に終了した。試掘・確認調査の結果から、面積に比して遺構密度が低いため、当初は調査期間が短期間であっても十分終了できると考えていた。しかし、作業員が予想以上に集まらなかったこと、あまりの酷暑に体力の消耗が激しく、想定以上に作業が進まなかつたことから、調査の予定期間ぎりぎりに終了することとなった。

その間の経過は次のとおりである（調査日誌より抜粋）。

【平成 20 年 7 月】

1 日 調査区の設定を行う。

- 4日 表土剥ぎ開始。重機により調査区北東側にトレーナーを入れて遺構面を確認しながら層位の確認を行う。
- 7日 引き続き表土剥ぎを行ふ（～7月14日まで）。前日に梅雨明け。快晴であった。
- 15日 プレハブ事務所設置。
- 22日 作業員が入り、本格的に発掘調査開始。余りの酷暑に、作業員2名が午前中でダウン。頻繁に休憩を取りながら調査を進めた。
- 23日 重機による表土剥ぎで取りきれなかった箇所の掘削が終了。遺構の検出作業に入る。
- 24日 直径15～20cm前後、黒色の覆土のピットの検出が相次ぐ。覆土の土色、出土遺物の様相から中世の可能性がある。文化課坂田参事来跡。委託先の九州文化財研究所が4級基準点測量及びメッシュ杭設置作業を開始する（7月28日まで）。
- 29日 調査区南側の遺構検出作業が終了。北側の検出作業に入る。南側に比べて遺構密度が高くなる。文化課高木課長補佐、坂口参事来跡。
- 30日 作業員増員（杉浦さん、森上さんが合流）。ピットの検出が相次ぐが、掘立柱建物にならない。土師器片はトロトロになった状態で出土する。少人数、酷暑、ピット数の多さから少しでも掘削時間を確保したいため、焦り始める。

31日 作業員増員（上野さんが合流）。ピットの検出が続く。文化課遠山氏来跡。

【平成20年8月】

- 1日 遺構検出作業の3/4が終了。大形土坑、溝状遺構を検出する。文化課坂口参事来跡。
- 4日 遺構検出作業が終了。
- 5日 調査区北側からピットの掘削作業開始。当初は、段下げ後に半裁、完掘の予定であったが、調査期間確保のため半裁、完掘に調査方法を変更。
- 7日 ピットの半裁を継続。ピット覆土からは摩滅した中世の土師器皿の出土が多い。
- 12日 調査区北側ピットの半裁を終える。翌日からお盆休み。
- 18日 調査再開。ピットの完掘を開始する。遺構実測作業も開始する。昼過ぎに豪雨。文化課宮崎参事来跡。
- 20日 文化課高木補佐来跡。
- 21日 国土交通省熊本河川国道事務所来跡。北側のピットの完掘は3/4が終了。
- 25日 北側のピットの完掘はほぼ終了。
- 26日 溝状遺構の掘削を開始する。
- 27日 掘削作業と遺構実測を併行して行う。文化課牛島氏来跡。
- 29日 遺構密度の低い、南側で写真前清掃を行う。直ちに調査区南側完掘状況写真撮影。文化課高木補佐来跡。

【平成20年9月】

- 1日 調査区北側の写真前清掃を行う。
- 2日 清掃中に遺構の見落としを発見。文化課廣田参事来跡。
- 3日 写真前清掃が終了。調査区北側完掘状況写真撮影。
- 4日 遺構完掘写真の撮影を行う。掘り残しのあった遺構の完掘を行う。
- 5日 遺構実測を残し、発掘調査が終了。作業員さんとの別れを惜しむ。
- 9日 遺構実測継続。文化課長、審議員、高木補佐、西住主幹、川上主幹、廣田参事、坂口参事来跡。
- 11日 調査機材を文化財資料室に搬入。
- 12日 プレハブ事務所撤去。
- 25日 遺構実測作業終了。現地での発掘調査終了。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

山下遺跡が所在する熊本県御船町は、北緯32度42分、東経130度48分に位置する。東西約20km、南北約10km、面積は約99km²を測る。熊本県のほぼ中央にあり、行政域としては上益城郡に属し、その西部（ほぼ中央）に位置している。

古くから上益城郡内の政治・経済・文化の中心として栄えてきた。北は上益城郡益城町、東北は阿蘇郡西原村、北西は上益城郡嘉島町、西は熊本市、南西は上益城郡甲佐町、南は下益城郡美里町、東は上益城郡山都町と接している。

本遺跡の西側には、益城町から八代郡氷川町へと至る国道443号線が縱走しており、熊本市から人吉市に至る国道445号線と交差する辺田見交差点付近では、近年開発が急ピッチで進んでいる。

本遺跡は、熊本県地質図によると御船層群上層部から中位段丘堆積物託麻砂礫層上の境界付近に立地しており、標高は約34m～35mを測る。遺跡からは、山塊が船底の形をした船野山（307.8m）や、熊本県内では金峰山との昔話でよく知られ、飯田山常楽寺が山上にある飯田山（481.2m）を望むことができる。

第2節 歴史的環境

（1）旧石器時代

山下遺跡周辺では、旧石器を調査目的とした発掘調査により出土したものはない。しかし、表面採集により旧石器は見つかっており、御船町木倉で石核が、御船町樺迫でナイフがそれぞれ表面採集されている。また、本遺跡の1km北西に位置する益城町塔平遺跡では、かつて細石器・スクレイバー・剥片・礫器が表面採集されている。

（2）縄文時代

遺跡周辺には、縄文時代の遺跡が早期から晩期まで数多く存在している。

熊本県内には宇土市の轟貝塚、曾畠貝塚、熊本市の阿高貝塚、御領貝塚、黒橋貝塚、沼山津貝塚、渡鹿貝塚、嘉島町のカキワラ貝塚、甘木貝塚といった多くの貝塚が存在している。山下遺跡が所在する御船町内では、辺田見下鶴に辺田見貝塚がある。昭和30年頃までは、畑や人家に貝が散らばっていたとされるが、今はほとんどみられないという。

山下遺跡周辺で発掘調査された遺跡では、益城町櫛島遺跡がある。山下遺跡の北西2kmに位置する櫛島遺跡は、昭和47～48年に九州縦貫自動車道建設に伴い発掘調査され、早期押型文土器や塞ノ神式土器が出土している。石蒸し料理をした跡と考えられる集石遺構や長楕円形の跡がヒトデの様な形で重なって検出されている。また、近年発掘調査された遺跡では、国道445号線のバイパス建設工事に伴い、熊本県教育委員会によって平成20年に調査された辺田見中道遺跡がある。辺田見中道遺跡からは、晩期の竪穴住居跡と考えられる竪穴状の遺構や埋甕が複数検出されている。

（3）弥生時代

御船町内には、弥生時代とされる遺跡は数多く存在している。しかし、発掘調査されている遺跡は意外と少ない。御船町豊秋久保遺跡で弥生時代前期の住居跡が発見されている。見つかった住居跡は竪穴住居跡と考えられたが、全体の形はよくわからなかったという。

山下遺跡周辺で発掘調査された遺跡では、サントリービール工場建設に伴い発掘調査された嘉島町二子塚

遺跡が県内を代表する遺跡である。弥生時代後期の環濠集落として知られており、環濠内の竪穴住居跡が多数調査されている。また、昭和42年に工場誘致に伴って発掘調査された益城町秋永遺跡では、弥生時代中期の喪棺、後期の断面V字状の溝状遺構や竪穴住居跡が検出されている。近年発掘調査された遺跡では、九州縱貫自動車道嘉島ジャンクション建設工事に伴い、平成20年から平成22年にかけて熊本県教育委員会により調査された益城町塔平遺跡がある。塔平遺跡からは弥生時代後期の竪穴住居跡が数多く見つかっている。内部にベッド状遺構を持つ竪穴住居跡からは、免田式土器を含む後期の土器が彫形土器を中心に大量に出土している。近くに立地する二子塚遺跡との関係について、今後の報告に期待したい。

(4) 古墳時代

山下遺跡が所在する御船町内には20数基の古墳が確認されている。御船町豊秋の秋只古墳群は、昭和48年に九州縱貫自動車道建設工事に伴って発掘調査された。前方後円墳である長塚古墳、円墳である帆山古墳、箱式石棺9基、壺棺が発掘調査されている。5世紀代から6世紀代の古墳群である。また、町内では江戸時代に記された『肥後國誌』の記事が該当すると考えられている今城大塚古墳が知られている。前方後円墳と思われる本古墳は、装飾古墳として知られ、横穴式石室内からは、盾や円文の装飾が見つかっている。山下遺跡の1km北西には、昭和47年に養豚場堆肥置場の造成の際に発見された塔の平石棺がある。調査されていないため詳細は不明だが、前期の石棺と考えられている。その300m北西には鬼塚古墳がある。2基の円墳で後期のものと考えられている。昭和40年頃の圃場整備により埋没してしまった。

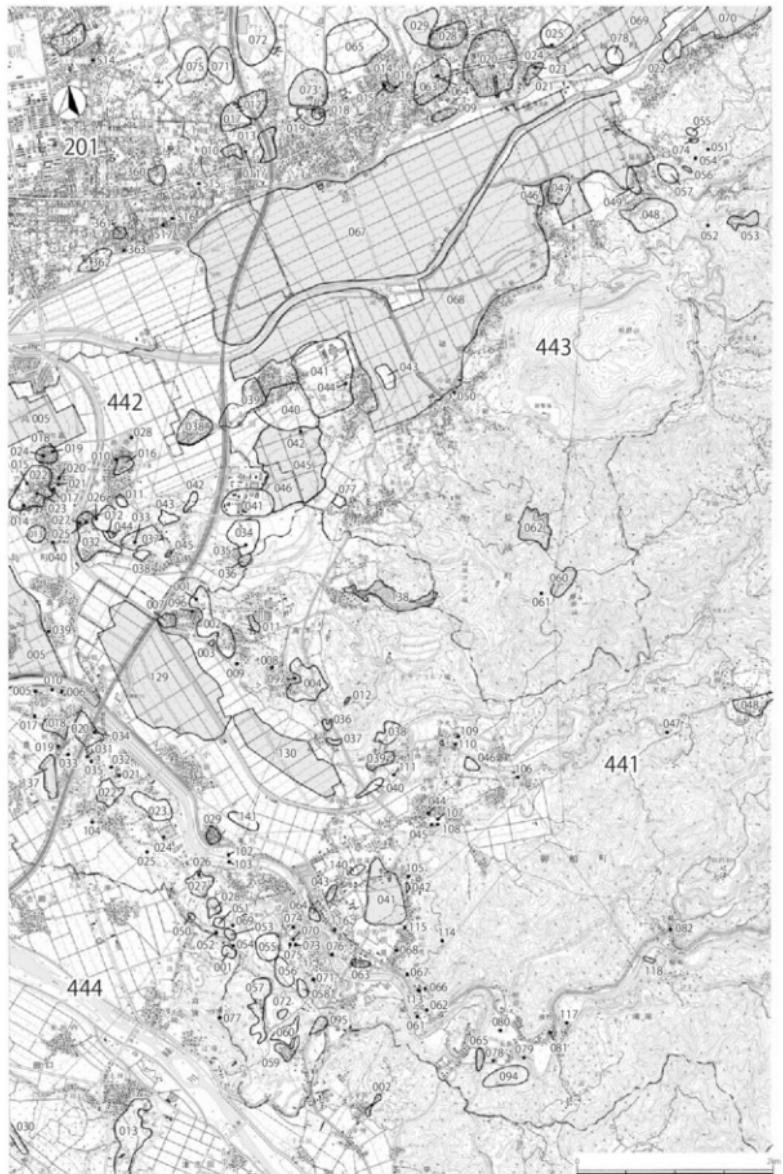
集落遺跡としては、熊本市から人吉市に至る国道445号線のバイパス建設工事に伴い新たに見つかり、熊本県教育委員会により平成21年度から発掘調査されている滝川石田遺跡がある。

(5) 古代

山下遺跡周辺で発掘調査された古代の遺跡は、前述の嘉島町二子塚遺跡と益城町塔平遺跡がある。二子塚遺跡からは、18棟の掘立柱建物跡と3条の柵列が検出されている。塔平遺跡からは、カマド付きの小形の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が複数検出されている。また、本遺跡が所在する御船町高木は、周辺の木倉・御船原台地と同じく古代末期・中世期は甘木荘として莊園化されたとされている。本遺跡の東側に位置する飯田山上には、飯田山常楽寺がある。天台宗の末寺で、益城・御船地方の名刹である。諸説あるが、『元亨釈書』には「飯田の真俊」の名があり、真俊が常楽寺の開山と一般的に言われている。真俊の弟子・俊衡は、仁安元年(1166)、肥後国益城郡甘木荘で生まれ、後の京都泉湧寺を実質的に開山したとされる月輪大師・俊衡(がちりんだいし・しゅんじょう)である。常楽寺からは、以前調査で寺域から布目瓦が採集されているため、現在の境内のどこかに瓦葺の本堂があったと考えられている。

【引用・参考文献】

- 嘉島町 1989 『嘉島町誌』
- 熊本県教育委員会編 1999 『古闕北遺跡』
- 熊本県教育委員会編 1999 『古闕北・梨木遺跡』
- 熊本県地質図編纂委員会編 2008 『熊本県地質図(10万分の1)』
- 益城町 1990 『益城町史 通史編』
- 益城町教育委員会編 2010 『小柳遺跡』
- 御船町 2007 『御船町史』



第1図 山下遺跡と周辺の遺跡 (1/50000)

第1表 山下跡周辺遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	国考
001	甘木貝塚	甘木(道向甘木)	縄文	貝塚		縄文遺物包含
002	甘木	甘木(道向甘木)	縄文	古墳地		縄文中後墳土高・土円墳・史跡
003	天神原	高木(高木天神原)	弥生	古墳地		弥生・土圓墳・史跡
004	高須原	高木(高木上)	弥生	古墳地		弥生・土圓墳・史跡
005	御所御吉ヶ原	高木(御所御)	古墳	古墳		
006	蛭塚古墳	高木(蛭塚古墳)	古墳	古墳		蛭塚古墳
007	甘木城跡	甘木(二ノ城)	中世	城		中世城跡
008	葛原御社御城	下野野(葛原御社御)	中世	古墳地		縄到奈良三歳、承元17年大水活動あり
009	安養寺跡	高木(安養寺下野野)	中世	寺社		
010	蛭塚	高木(蛭塚)	中世	城		中世城跡
011	「少」山	高木(道向下野野)	中世	城		
012	御史御(御史跡)	御史(御史)	古代・中世	生遺		
013	二子寺古墳	高木(二子寺)	古墳	古墳		
014	久保(松久保)	高木(久保)	縄文～古墳	古墳地		
015	秋保古墳	高木(秋保)	古墳	古墳		土師器・酒器
016	秋保古墳	高木(秋保)	古墳	古墳		土師器・酒器
017	小坂大塚古墳	小坂(大塚古墳)	古墳	古墳		繩式石灯籠2体
018	小坂大塚古墳	小坂(大塚古墳)	古墳	古墳		石燈籠
019	小坂大塚古墳	小坂(大塚古墳)	古墳	古墳		石燈籠
020	秋保古墳群	小坂(久保ほか)	古墳	古墳		
021	小坂大塚古墳	小坂(下野)	古墳	古墳		
022	桃原	津(桃原)	古墳	古墳		
023	小坂大塚	小坂(大塚)	古墳	古墳		
024	鴨原古墳	津(鴨原)	古墳	古墳		
025	京原古墳	津(京原)	古墳	古墳		
026	今城大塚古墳	津(今城)	古墳	古墳		
027	大塚	津(大塚)	弥生	古墳地		弥生海耕土器
028	道川中野	道川(中野)	弥生	古墳地		弥生中野土器
029	平瀬御跡(今利御)	道川(今利御)	中世	城		
030	秋原(西方)古墳	津(秋原)	中世	古墳地		
031	豊前御厚石板	津(豊前)	古墳	古墳		
032	朝倉御厚石板	津(朝倉)	古墳	古墳		
033	朝倉御古墳	津(朝倉)	古墳	古墳		
034	長原古墳	津(久保)	古墳	古墳		
035	山鹿石棺群	津(山鹿)	古墳	古墳		
036	片生御(片生)	木森(片生)	古墳	古墳		
037	片生御(六石)	木森(六石)	古墳	古墳		
038	上の原	木森(道向心の原)	古墳	古墳地		土師器・酒器
039	鶴龜	木森(鶴龜)	弥生	古墳地		弥生土器
040	混合古(古跡)	木森(片生)	古墳	古墳		
041	御船御松	木森(木森)	古代・中世	古墳地		
042	木森御前丘	木森(木森)	古代・中世	古墳地		
043	御船御(御船)	御船(下野)	中世	城		町
044	西木森六地蔵	木森(西)	中世	石造物		
045	平野御(御の森)	木森(御の森)	中世	墓	町	木森御内にあり
046	木森(小坂・山内・山内)	木森(西)	古墳	古墳		
047	御井古墳	木森(御井)	古墳	古墳		
048	古井の原	木森(古井の原)	古墳	古墳		
049	高川の草堂堂六	高川(草堂堂)	古墳	古墳		
050	高川御堂堂	高川(御堂堂)	古墳	古墳		
051	高原	高川(高原)	周文・弥生	古墳地		縄文早期土器・弥生土器
052	若屋御(下野御)	御船(下野御)	古墳	古墳		
053	若屋御B	御船(下野御)	周文	古墳地		縄文後期土器
054	若屋御(八幡御)	御船(下・上野御)	古墳	古墳		人骨
055	下山神	御船(下山神)	弥生	古墳地		弥生海耕土器
056	若屋御A	御船(上野御)	周文・弥生	古墳地		縄文海耕土器・弥生海耕土器
057	下山山	御船(下山山)	弥生～古代	古墳地		
058	中山神	御船(中山神)	周文	古墳地		縄文海耕土器・石舟
059	上山山	御船(上山山)	周文	古墳地		縄文海耕土器・土師器・酒器
060	上山神	御船(上山神)	弥生	古墳地		弥生後期土器
061	東津御(荒)2号古墳	古田見(東津御)	古墳	古墳		
062	東津御(荒)1号古墳	古田見(東津御)	古墳	古墳		法螺貝・金冠
063	近江御具塚	古田見(下野)	古墳	古墳		縄文中期土器
064	六丁目	古田見(山田)	弥生	古墳地		弥生土器
065	五山御(御)	高川(五山)	中世	城		
066	阿那御(御)	古田見(御)	古墳	古墳		
067	光子不動の墓	古田見(御)	近代	墓		
068	木森古(木森古)	古田見(上野田見)	古墳	古墳地		縄輪(佐久間浜古)
069	稻良碑	御船(稻良)	中世	古墳		
070	机津御(木森)	木森(机津)	古代	墓	町	(十石前の木)
071	机津御(机津)	御船(一目)	近代	石造物		
072	道人御山	古田見(御)	周文～中世	古墳地		
073	机津御(木森)	御船(三日)	中世	古墳地		片山
074	御船御(御)	御船(五日)	近代	古墳地		御舟
075	越後御(御)	御船(御)	近代	土壇		
076	近江御(御)	古田見(御)	古墳	古墳地		
077	白糸(高尾)	御船(高尾)	近代	墓		

調査番号	道路名	所在地	時代	種別	指定	備考
008	玉生の近辺通駅道	海尾 玉生	中世	石造物 司		
009	玉生寺跡	海尾	中世	寺社		
060	玉生六地蔵	海尾	中世	石造物		
061	橋の通駅道	東尾 橋野	中世	石造物	河原眞言(延文4年)	
062	下野町通駅道	海尾 下野	延文	石造物 司		
064	玉堀	玉堀	西唐～西代	也造地		
095	初代役	邊田丸 下迎井	中世	石造物	也造地	
066	芦北場屋の通駅道	高木 芦北	中世	石造物	同日御来山道	
097	年次津守の通駅道	高木 上高野	中世	石造物	阿野井二ノ峰	
102	水野町の通駅道	海川 今城	中世	石造物	平成12年	
103	堅野町の通駅道	海川 今城	中世	石造物	釋子ツーン	
104	金先寺の也造地	海	中世	石造物	延文2年	
105	堅野町の通駅道	木食 駒曾合	中世	石造物	天文8年既、武千草有り	
106	堅野町の通駅道	木食 田中浜原	中世	石造物	堅野面白	
107	木食寺の通駅道	木食 西	中世	石造物 司	堅駿、弘治13年、石駿町指定	
108	木食寺の通駅道	木食 西	中世	石造物	阿野井二ノ峰	
109	東寺寺の通駅道	木食 東	中世	石造物	享保1年・永禄7年(法隆11年)	
110	争元寺寺	木食 東	中世	寺社		
111	北上野の通駅道	木食 西	中世	石造物	同日御来山、天文18年既	
113	安樂寺本堂五寺三母像	邊田丸 宗神寺	中世	石造物	事多坐主天國の奉行御在、六地蔵印加地	
114	上高田通駅道	邊田丸 中迎井	中世	石造物	永保2年・天文17年	
115	高田通	邊田丸 上高田	延文	石造物	弘治2年既	
116	大手手の通駅道	邊田丸 中迎井	延文	石造物	標上はコンクリート	
117	朝玉堂の通駅道	海尾 橋野	中世	石造物	天文8年既	
118	下高木の通駅道	海尾 下高木	中世	石造物	永保9年	
129	高木路		古事・中唐	生産		
130	高木路		古事・中唐	生産		
137	秋山山下通駅道	豊秋 秋只	弘生・中唐	築造跡		
138	山下通駅道	高木 下野原・山下	延文	也造地		
140	因田見字通駅道	因田見	延文	也造地	義文土器・石器	
141	海川右臣通駅道	海川	延文	也造地		

私用路 (4) 高木町 (201)

調査番号	道路名	所在地	時代	種別	指定	備考
359	庄内坂	健軍町庄内坂	延文～平安	也造地		
560	庄内坂	秋津町	弘生～平安	也造地		
361	下高田坂	秋津町	延文～平安	也造地		
562	因山通駅道	秋津町 丁野谷山通	延文	也造地	義文小御、奥路	
563	西野料及び西野軒	秋津町因山通	江戸	達道物 市	市松和通造物及び史跡	
514	庄内坂の通駅道	健軍町庄内坂	中世	石造物	健軍石造物	
515	橋の小越の通	秋津町因山通	明治	墓	義山2年	
516	因山通駅道	秋津町	中世	石造物	天文9年・永保11年	
517	因山通駅道	秋津町	江戸	也造地		

私用路 (4) 高木町 (442)

調査番号	道路名	所在地	時代	種別	指定	備考
002	矢張川流域通駅道	下六畠 上野・相馬ヶ	古代・中世	生産		
010	井寺古墳	井寺 黒雲殿	古事	古墳 国	鏡式石室塚、後円柱式あり、直刀	
011	上高保古墳群	井寺 上高保	古事	古墳		
012	上笠原1丁古墳	井寺 上笠原	古事	古墳		
013	上笠原2丁古墳	井寺 上笠原	古事	古墳		
012	上笠原	井寺 上笠原	伸生	理葬	伸生墓地	
013	カキワツラ	下六畠 カキワツラ	伸生	理葬	伸生墓地	
014	カキワツラ通	下六畠 カキワツラ	延文	理葬	義文古墳の土器	
015	笠原牛頭原古墳群	下六畠 笠原牛頭原	伸生	理葬	伸生墓地・石形丁・電八石門	
016	井寺	井寺 蓮覆殿	延文～中世	也造地		
017	高木知跡	下六畠 高木	中世	知		
018	高木寺	下六畠 高木	延文～中世	也造地		
019	西光寺前御原群	下六畠 西光寺	伸生	理葬		
020	内高原	下六畠 西高原	伸生	理葬		
021	通御神之宿(宿御武穴)	下六畠 西高寺	中世	墓		
022	下六畠御原群	下六畠	延文～古代	也造地		
023	内高神社の五重塔	下六畠 室内本	中世	石造物		
024	下六畠の五重塔	下六畠	中世	石造物		
025	通御原の塔	井寺 通見原	中世	石造物		
026	井田古墳	北甘木 井田	古事	古墳		
027	利根見通駅道	北甘木 利根	伸生	理葬		
028	牛ノ跡	井寺 牛ノ跡	中世	石造物		
029	北ノ原	北ノ原 通御原	延文・准生	理葬	義文後・朝朝土器・引生墓	
030	御原保古墳	北甘木 保原	古事	古墳		
034	二字原	北甘木 二字原	伸生・古事	也造地	理葬集落	
035	二字等古墳	北甘木 二字等	古事	古墳		
036	下古原	下古原	延文	也造地	義文土器・土師器	
037	毛ノ木	北ノ木 茂原	延文～古代	也造地		

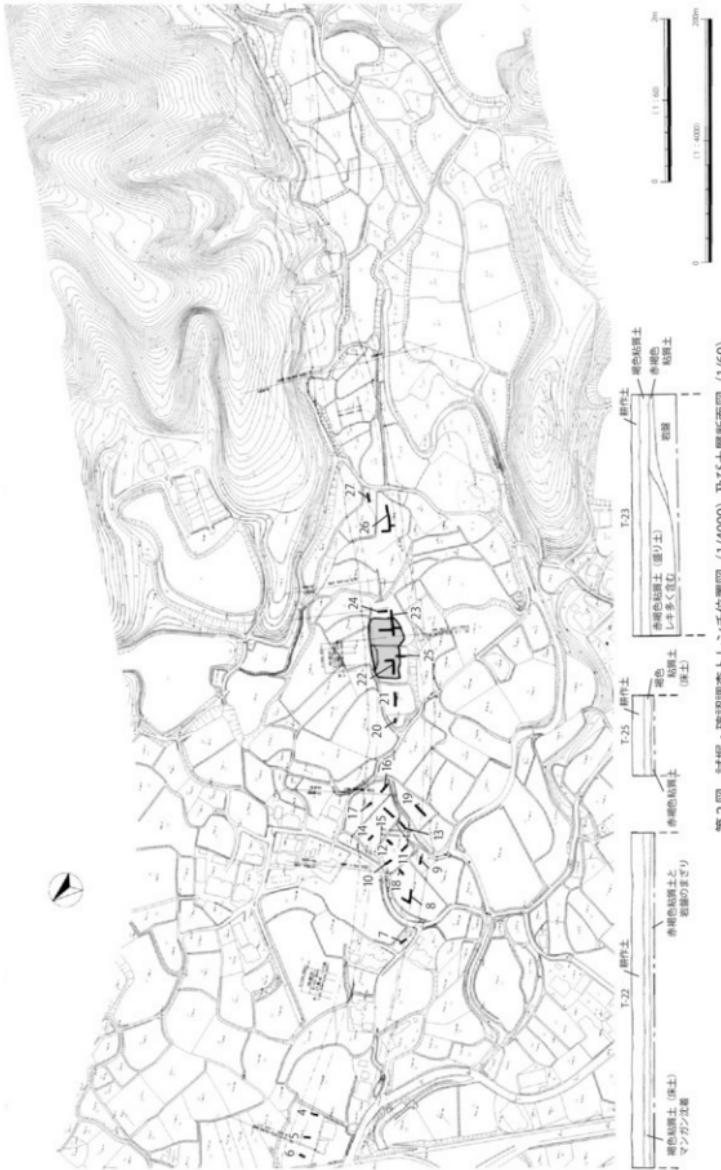
遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
Q38 小沢	吉井 小沢	横文	丘陵地	縄文	古墳	縄文初期土器
Q39 茂福寺跡	上六貫 善福寺	中世	寺社			
Q40 四津小路	上六貫 真照	中世	寺社			
Q41 大屋	上六貫	近世		丘陵地		
Q42 内野	吉井 内野 550番地地21号	現代	弥生・古生	丘陵地		
Q43 新宿	吉井 新宿724番地地51号	現代	弥生・古生	丘陵地		
Q44 遊丸原	吉井 上賀茂550番地地5号	現代	弥生	丘陵地		縄文土器、弥生土器、横短
Q45 美濃	吉井木 美濃1217-1番地地5号	現代	弥生	丘陵地		縄文土器、弥生土器
Q46 横平	吉井 上大島 小道板	現代	弥生・奈良・平安	丘陵地		

施本部(43) 遺跡目 (443)

施本部番号	施跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
009 古川	吉永 古川	弥生・古墳	集落			
010 第山	吉永 第山・西所	弥生・古代	丘陵地			
011 第1・2号墳	吉永 第1・2号	古墳	古墳		特認さん	
012 古岡	吉岡 古岡	縄文・弥生	丘陵地		縄文・弥生・土加谷外の遺物包含	
013 石塚	吉岡 石崎川駒ヶ	縄文・弥生	丘陵地		縄文・弥生・土加谷外の遺物包含・瓦片	
014 鶴河原	馬糸 鶴河原	縄文・弥生	丘陵地			
015 阿河原古墳	馬糸 阿河原	古墳	古墳		縄文竹・羽器	
016 馬糸御林山古墳	馬糸 御林山	古代・半世	生田		ムサシヨロ・鷹狩・高麗・土器	
017 広瀬木本木	三郷 六木木	古墳	古墳			
018 梅翁	梅翁 梅翁	縄文・古代	丘陵地			
019 高木町西の埋蔵	御置 高木	古墳	磁器		石核多数	
020 宮内人	山川 宮内山	弥生	丘陵地		弥生中期土器	
021 木山跡	寺込 木山	弥生	城		下部・物干・当廻・住居跡	
022 平田	平田 平田	弥生	丘陵地		弥生中期	
023 桃ノ木古墳	寺込 桃ノ木	古墳	古墳		円墳・矩式石成(母粒)、出土品の検定	
024 上ノ野跡式古墳	寺込 上ノ原	古墳	古墳			
025 上ノ原	寺込 上ノ原	弥生	稚前		弥生中期群	
026 近	深谷 近	縄文・半世	丘陵地			
027 須曾利	安永 須曾利	縄文・半世	丘陵地			
028 稲島	稻田 稲島	縄文	丘陵地		縄文土器	
029 分石	梅原 分石	弥生	丘陵地		弥生中期	
030 黄麻田	羽羽 黄麻田	弥生	丘陵地		弥生中期土器・腰帯	
031 秋水	小坂 秋水	弥生	集落		弥生中期・土器・土師陶	
032 魁須古墳	小坂 魁須	古墳	古墳			
033 八反田	穂村 八反田	弥生	稚前		弥生中期	
034 粕余心相群	小坂 粕余心相	古墳	古墳		弥生中期・稚前	
035 道平	小坂 道平・道越・少道田・寺井山・鬼塚・古坂	縄文・弥生・奈良・平安	丘陵地			
036 佐井	寺井 佐井	古代	丘陵地		土器複数	
037 佐井城跡	寺井 佐井	中世	城		(木山)内地名より	
038 稲原町西群	福原 西原山	古墳	古墳		平底	
039 稲原	福原 稲原寺	古墳・古代	丘陵地		大小・鉢形器・筒形土器	
040 稲野	福原 稲野	中世	城		(坂の尾跡跡)	
041 安養寺	福原 村ノ久保	中世	寺社			
042 稲の木古墳	福原 稲の木	古墳	古墳		行者塗の稚前陶	
043 稲叶寺跡	福原 稲叶寺	古代・半世	寺社		出土器物・青磁	
044 うどば城跡	福原 久保	古墳	古墳			
035 五斗町の城跡	福原 五斗坂	古墳	稚前			
036 稲志山	福原 稲志山	縄文・古代	丘陵地		弥生土器・世田式土器	
037 上ノ原跡式古墳	福原 上ノ原	古墳	稚前			
038 稲山寺・粟田寺跡	福原 稲山寺・粟田寺	古代・半世	寺社		古墳跡歴史	
039 稲田跡	福原 稲田	古墳	古墳			
040 稲田跡	福原 稲田	古墳	古墳			
041 稲田跡	福原 稲田	古墳	古墳			
042 日出平城跡(栗田城跡)	福原 福原・大入塚	中世	城			
043 安条	安条	弥生～西代	丘陵地			
044 火炎の城跡	安条	古墳	稚前			
045 大沢	馬糸 大沢	縄文・半世	生田			
046 馬糸跡	馬糸 馬糸	古代・半世	生田			
047 馬糸跡	馬糸 馬糸	古代・半世	生田			
048 馬糸	馬糸 小坂	古代	生田			
049 小坂	小坂 小坂	古代	生田			
050 中世	中世	中世	城			
051 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
052 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
053 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
054 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
055 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
056 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
057 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
058 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
059 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
060 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
061 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
062 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
063 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
064 仁賀北	仁賀 北	中世	城			
065 大沢	馬糸 大沢	縄文・半世	生田			
066 馬糸跡	馬糸 馬糸	古代・半世	生田			
067 馬糸跡	馬糸 馬糸	古代・半世	生田			
068 馬糸跡	馬糸 馬糸	古代・半世	生田			
069 馬糸跡	馬糸 馬糸	古代・半世	生田			
070 馬糸跡	馬糸 馬糸	古代・半世	生田			
071 葉木	江崎 葉木	縄文・弥生	丘陵地			
072 萩間北	萩間 萩間・福原・萩原	縄文・弥生	丘陵地			
073 野塙山	野塙 野塙	縄文・弥生	丘陵地			
074 杉ノ久保	福原 杉ノ久保	弥生	丘陵地			
075 仁賀北道路	仁賀北 仁賀北	縄文	丘陵地			縄文後期～昭和モテ若士土
076 中原	小坂 中原	縄文	丘陵地			
076 小坂	寺込 小坂	古墳	集落			

施本部(43) 半田町 (444)

施本部番号	施跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
001 中原跡	仁賀 中原	弥生	丘陵地			仁賀中後期土器・石器丁・西洋
002 七甲小坂の丘	仁賀 七甲山	古墳	古墳			
013 仁賀中後期	仁賀 中後期	縄文	丘陵地			縄文(城)・山根谷・丘陵地
016 仁賀中後期	仁賀 中後期	古代・弥生	集落			土耕畠、山根谷、丘陵地



第2図 試掘・確認調査トレーン位置図(1/4000)及び土層断面図(1/60)

第3章 調査の方法と成果

第1節 確認調査の概要（第2図）

試掘・確認調査は平成19年12月12日～17日に4日間にわたって行われた。九州横断自動車道延岡線事業地内の27箇所にトレーニングを設け、遺構と遺物の有無とその包含状況を確認した。以下にその内容を抜粋して記載する。

27箇所のトレーニング調査の結果、5箇所から遺構と遺物が確認された。その内、21、26トレーニングでは、耕作土中から遺物のみの確認であったため発掘調査対象地外とされた。一方、22、23、25トレーニングでは、中世の土器器物を伴い複数のビットが確認されたため、この敷地内での発掘調査が必要と判断された。

第2表 試掘・確認調査トレーニング概要

No.	遺構・遺物・深さ	No.	遺構・遺物・深さ	No.	遺構・遺物・深さ	No.	遺構・遺物・深さ	No.	遺構・遺物・深さ
1	無・無・140cm	7	無・無・70cm	13	無・無・20cm	19	無・無・120cm	25	有・有・20cm
2	無・無・120cm	8	無・無・95cm	14	無・無・40cm	20	無・無・80cm	26	無・有・20cm
3	無・無・40cm	9	無・無・70cm	15	無・無・150cm	21	無・有・50cm	27	無・無・26cm
4	無・無・170cm	10	無・無・60cm	16	無・無・90cm	22	有・有・22cm		
5	無・無・190cm	11	無・無・110cm	17	無・無・85cm	23	有・有・20cm		
6	無・無・220cm	12	無・無・50cm	18	無・無・85cm	24	無・無・20cm		

第2節 調査の方法

発掘調査区は、試掘・確認調査によって遺構・遺物が確認された22、23、25トレーニングの敷地内に設定した。調査面積は約1,700m²である。

発掘調査は、まず調査区南東側から北西側に向かって重機により耕作土と水田の床土を除去した。過去の造成や耕作により遺物包含層は残っておらず、表土除去作業終了後、直ちに作業員により人力で遺構検出作業を行った。

4級基準点及びメッシュ杭設置作業は、株式会社九州文化財研究所に委託して実施した。メッシュ杭は平面直角座標にのせ、5m単位とした。この5m四方の区画をひとつのグリッドとし発掘調査の基準とした。グリッドは東西方向を西から東へA～M、南北方向を北から南へ1～11と設定した。なお、平面直角座標は、国土地理院のホームページで日本測地系の数値を世界測地系に変換し使用している。

遺構検出作業終了後、簡易な遺構配置図を作成した。遺構検出は人力により行った。多くのビットを検出したため、検出時に掘立柱建物や柵跡と判断したものは、半裁し、土層断面図を作成したうえで完掘した。それ以外のビットについては、半裁し、完掘した。遺構内出土遺物は、遺構名、層位名を付して取り上げた。遺構外出土の遺物は、グリッド単位で取り上げた。遺構は完掘したのち完掘平面図を作成し、写真撮影を行った。写真撮影は中判の白黒フィルムとカラーリバーサル、35mmの白黒フィルムとカラーリバーサルを用いて行った。

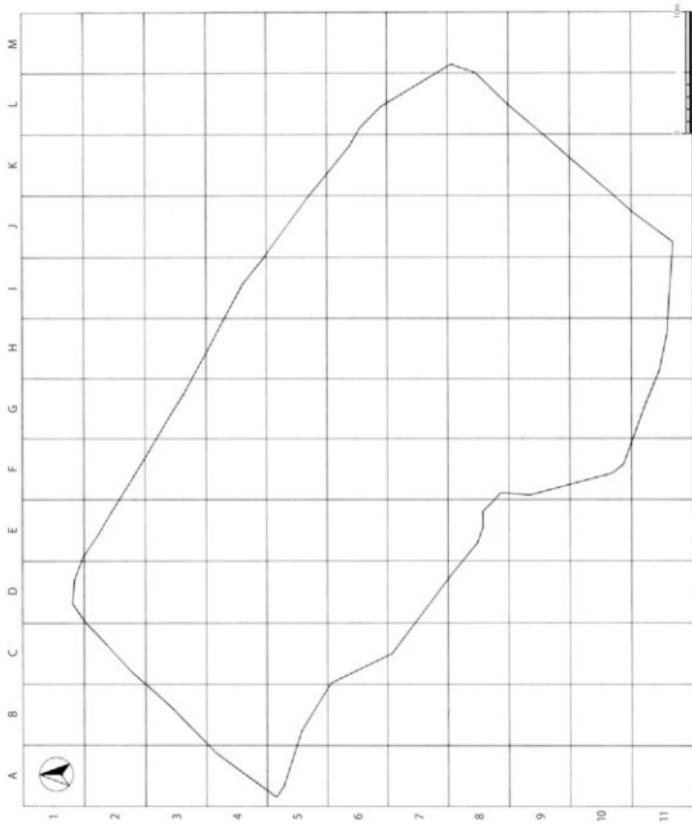
遺跡周辺の航空写真撮影は、九州航空株式会社熊本営業所に委託し実施した。

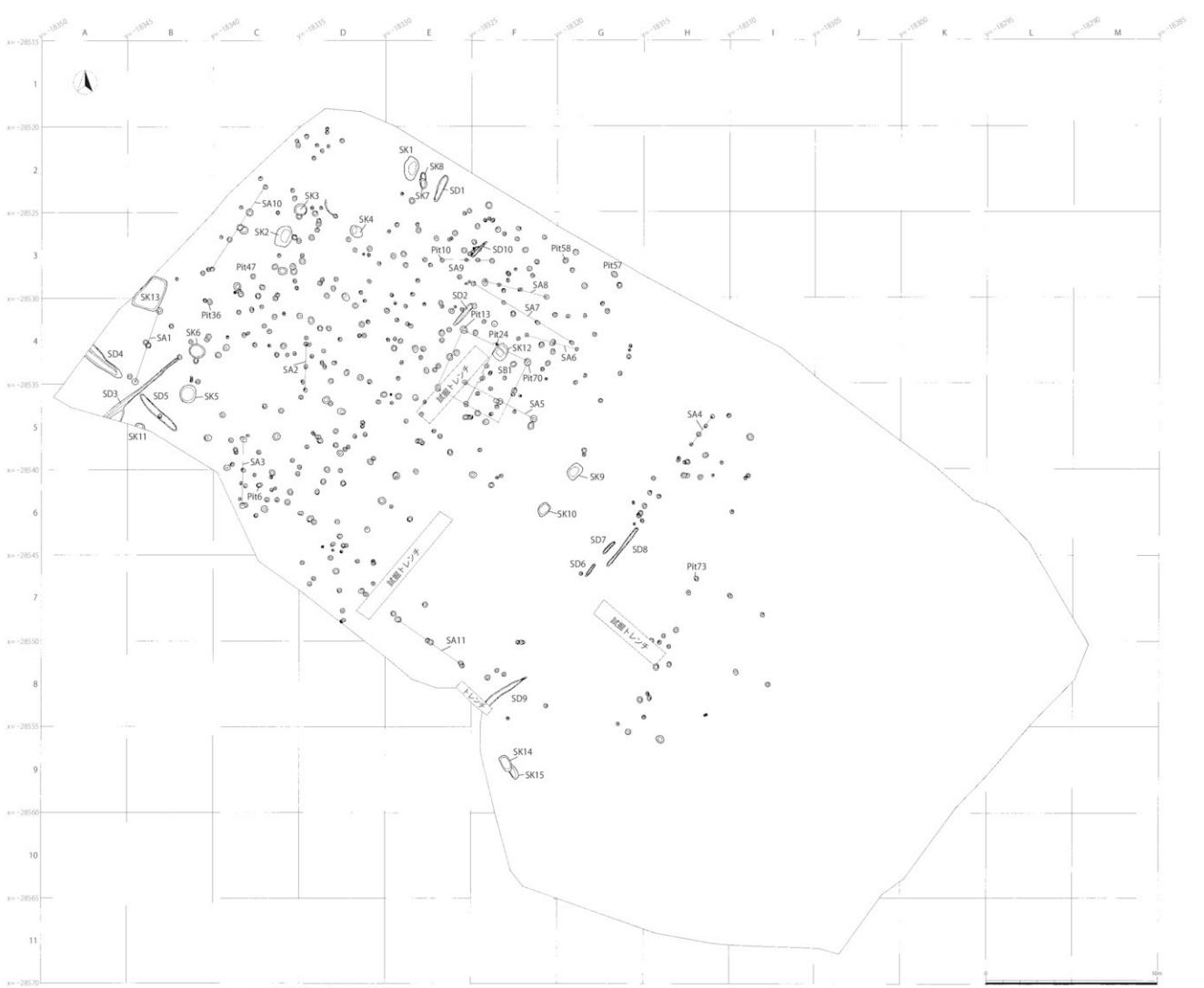
第3節 層序（第2図）

本遺跡の基本層序は以下のとおりである。

1層：耕作土。現在の水田面である。

第3図 調査区グリッド設定図 (1/400)





第4回 遺構配置図 (1/200)

2層：褐色粘質土。水田の床土である。

3層：赤褐色粘質土。遺構検出面である。黒色土を覆土とする多量のピットを確認した。

第4節 調査の成果

(1) 遺構（第4図）

①掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（SB 1）（第5図）

SB 1はE・F-4・5に位置し2間×2間の総柱建物で、桁行方向はN 63°Wである。南東隅の柱穴を確認することができなかっただため、掘立柱建物跡とすることに疑問もあったが、他の柱穴の並び等から今回は掘立柱建物跡と判断した。Pit №を付した柱穴からは、それぞれ遺物が出土している。

第3表 掘立柱建物跡計測表

遺構番号	間数	桁長		梁長		建物の向き	方位	型式	桁行平均		梁行平均		柱穴直径	柱穴深さ			
		m	尺	m	尺				m	尺	m	尺					
SB 1	2×2	4.22		13.9		3.76		12.4	東西	N 63° W	親柱	2.1	6.9	1.9	6.3	22~44	5~38

②柵跡

1号柵跡（SA 1）（第6図）

SA 1はB-4に位置し、3つの柱穴からなっている。長さは4.75mで柱間隔は、2.27m+2.1mの2間である。柱穴は直径31cm~38cm、深さ27cm~43cmで下端レベルは一定ではない。

2号柵跡（SA 2）（第6図）

SA 2はD-4・5に位置し、3つの柱穴からなっている。長さは2.91mで柱間隔は、1.39m+1.31mの2間である。柱穴は直径21cm~24cm、深さ10cm~29cmで両端の柱穴の下端はほぼ一定である。

3号柵跡（SA 3）（第6図）

SA 3はC-5・6に位置し、3つの柱穴からなっている。長さは4.19mで柱間隔は、2.05m+1.81mの2間である。柱穴は直径23cm~40cm、深さ16cm~37cmで下端レベルは一定ではない。

4号柵跡（SA 4）（第6図）

SA 4はH-5に位置し、4つの柱穴からなっている。長さは2.25mで柱間隔は、0.72m+0.64m+0.68mの3間である。柱穴は直径19cm~27cm、深さ6cm~14cmで下端レベルは一定ではない。

5号柵跡（SA 5）（第6図）

SA 5はE・F-5に位置し、3つの柱穴からなっている。長さは4.86mで柱間隔は、2.23m+2.31mの2間である。柱穴は直径26cm~40cm、深さ4cm~14cmで下端レベルは一定ではない。中央の柱穴に切りあいが認められるが、建替えによるものか、別の柱穴によるものか判断できない。

6号柵跡（SA 6）（第6図）

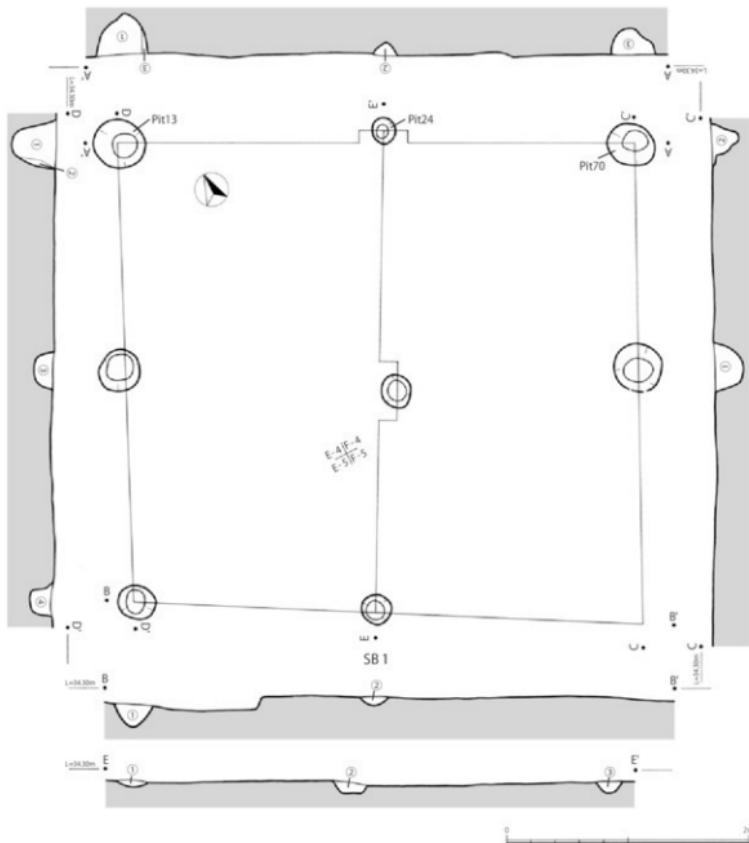
SA 6はF-4・G-4に位置し、3つの柱穴からなっている。長さは3.25mで柱間隔は、1.57m+1.45mの2間である。柱穴は直径20cm~37cm、深さ12cm~17cmで下端レベルは一定ではない。

7号柵跡（SA 7）（第7図）

SA 7はF-3・4・G-4に位置し、4つの柱穴からなっている。長さは6.92mで柱間隔は、2.06m+2.28m+2.33mの3間である。柱穴は直径20cm~31cm、深さ4cm~13cmで下端レベルはほぼ一定する。

8号柵跡（SA 8）（第7図）

SA 8はF-3に位置し、4つの柱穴からなっている。長さは3.99mで柱間隔は、0.82m+1.22m+1.6



A-A'

- ① Hue 75YR 4/4 褐色 繊りやや強い 粘性強い レキ(0.1~1cm)を多く含む 塗化物少量含む
- ② Hue 10YR 3/3 細褐色 繊り強い 粘性強い レキ(0.1~0.5cm)を多く含む 塗化物少量含む
- ③ Hue 10YR 3/3 細褐色 繊り強い 粘性強い レキ(0.1~2cm)を多く含む 塗化物少量含む

B-B'

- ① Hue 10YR 4/3 に似る黄褐色 繊り強い 粘性強い レキ(0.1~0.5cm)をやや多く含む
- ② Hue 10YR 3/3 細褐色 繊り強い 粘性強い レキ(0.1~0.5cm)を多く含む

C-C'

- ① Hue 10YR 3/3 細褐色 繊り強い 粘性強い レキ(0.1~3cm)を多く含む 塗化物少量含む
- ② Hue 10YR 3/3 細褐色 繊り強い 粘性強い レキ(0.1~2cm)を多く含む 塗化物少量含む

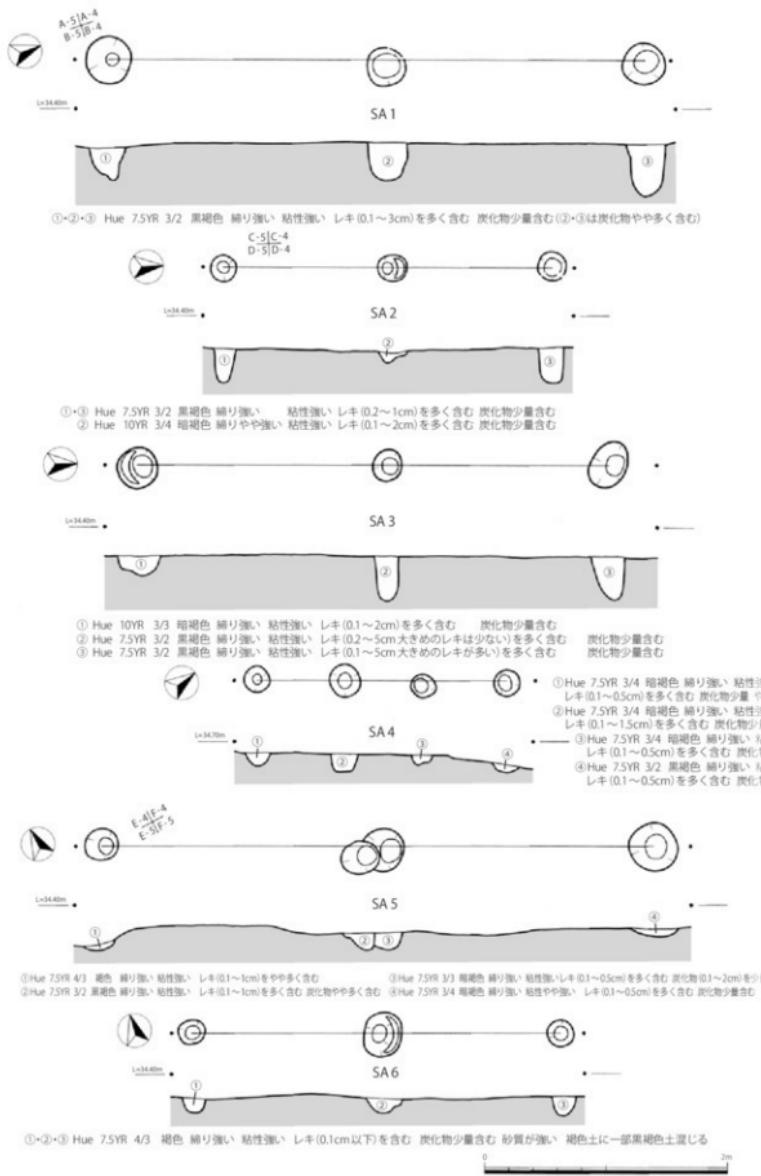
D-D'

- ① Hue 75YR 4/4 褐色 繊りやや強い 粘性強い レキ(0.1~1cm)を多く含む 塗化物少量含む
- ② Hue 10YR 3/3 細褐色 繊り強い 粘性強い レキ(0.1~2cm)を多く含む 塗化物少量含む
- ③ Hue 10YR 3/3 細褐色 繊り強い 粘性強い レキ(0.1~0.5cm)を多く含む 塗化物やや多く含む
- ④ Hue 10YR 4/3 に似る黄褐色 繊り強い 粘性強い レキ(0.1~0.5cm)をやや多く含む

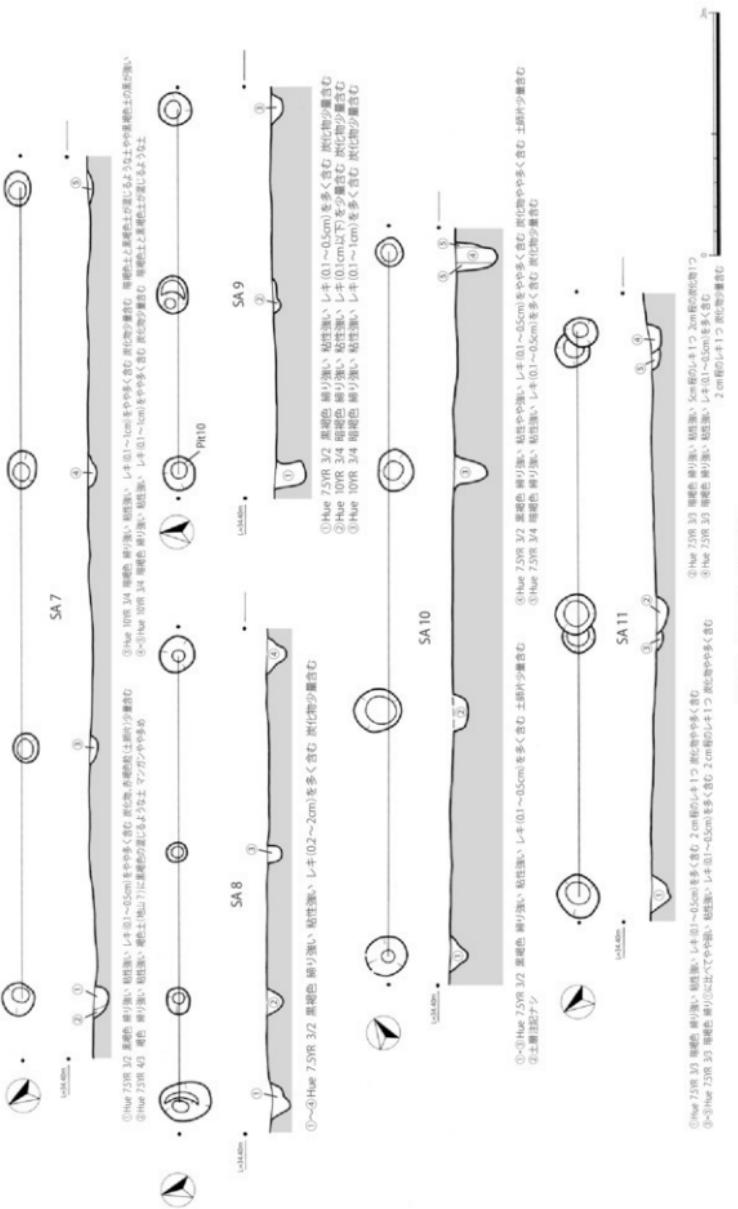
E-E'

- ① Hue 10YR 3/3 細褐色 繊り強い 粘性強い レキ(0.1~0.5cm)を多く含む 塗化物少量含む
- ② Hue 10YR 3/4 酸化鉄とマンガン粒を多く含む 塗化物も少し含む 0.2~0.5cm大のレキを含む
- ③ Hue 10YR 3/3 細褐色 繊り強い 粘性強い レキ(0.1~0.5cm)を多く含む 塗化物少量含む

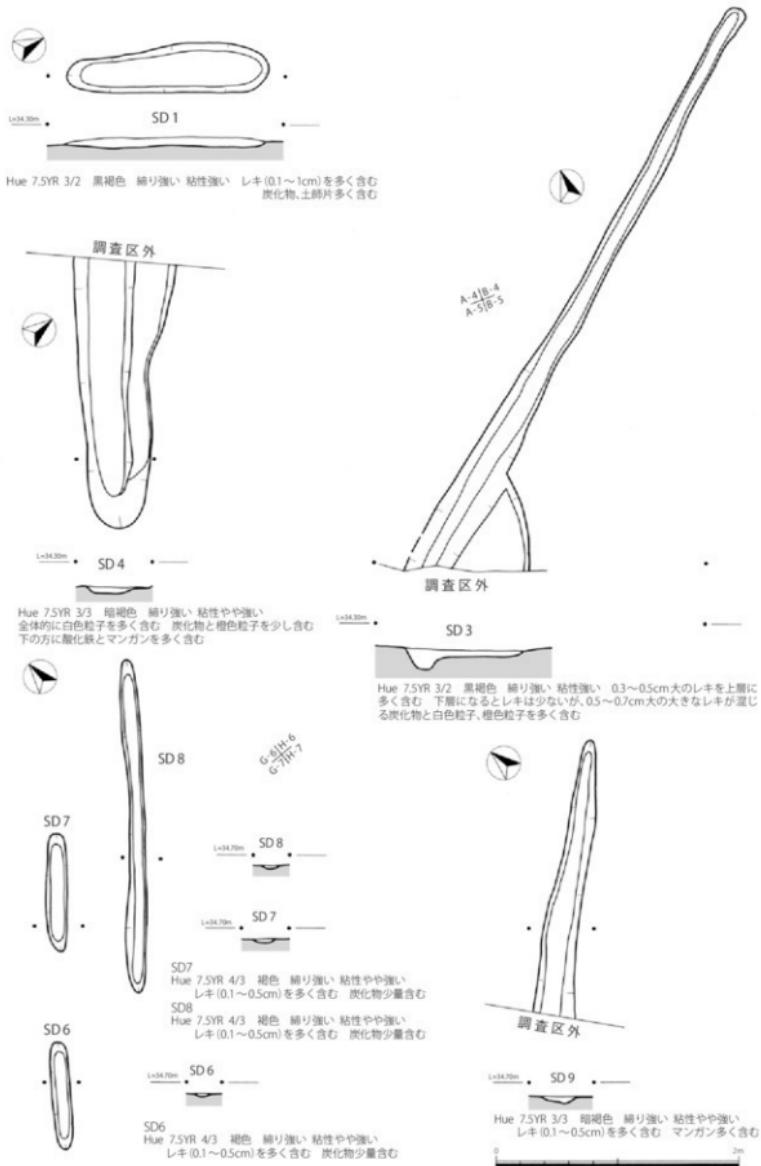
第5図 据立柱建物跡平面・断面図



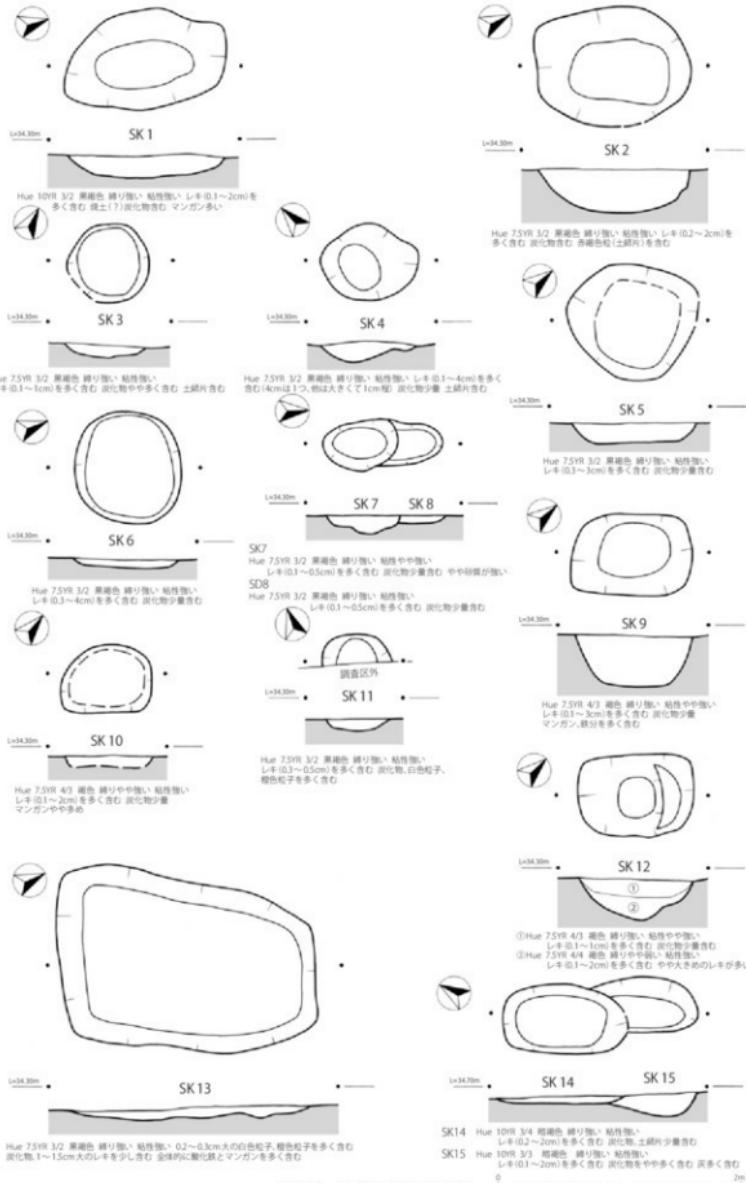
第6図 柵跡平面・断面図1



第7図 梱跡平面・断面図2



第8図 溝状遺構平面・断面図



第9図 土坑跡平面・断面図

mの3間である。柱穴は直径 16cm ~ 41cm、深さ 12cm ~ 16cm で下端レベルは一定ではない。柱間隔が一定でないため柵跡とするには疑問も残る。

9号柵跡（S A 9）（第7図）

S A 9はE・F・3に位置し、3つの柱穴からなっている。長さは 3.26 m で柱間隔は、1.45 m + 1.53 m の2間である。柱穴は直径 25cm ~ 31cm、深さ 6 cm ~ 26cm で下端レベルは一定ではない。

10号柵跡（S A 10）（第7図）

S A 10はC-2・3・B-3に位置し、4つの柱穴からなっている。長さは約 6.05 m で柱間隔は、2.01 m + 1.97 m + 1.78 m の3間である。柱穴は直径 22cm ~ 39cm、深さ 13cm ~ 34cm で下端レベルは一定ではない。

11号柵跡（S A 11）（第7図）

S A 11はE-7・8に位置し、3つの柱穴からなっている。長さは約 4.92 m で柱間隔は、2.22 m + 2.32 m の2間である。柱穴は直径 24cm ~ 36cm、深さ 5 cm ~ 16cm で下端レベルはほぼ一定する。2つの柱穴に切りあいが認められる。新旧で柱穴の直径、深さ、間隔がほぼ同一であることから建替えの可能性を指摘できる。

③溝状遺構

1号溝状遺構（S D 1）（第8図）

S D 1はE-2に位置し、幅約 0.4 m、長さ 1.66 m、深さ 0.09 m の溝である。大形の土坑の可能性もあるが、ここでは溝跡として報告する。

3号溝状遺構（S D 3）（第8図）

S D 3はB-4・5・A-5に位置し、幅約 0.2 m、長さ 5.24 m、深さ 0.16 m の溝である。北東方向から南西方向へ、調査区外へと伸びる。調査区壁際で広がる。別遺構による切り合いの可能性がある。

4号溝状遺構（S D 4）（第8図）

S D 4はA-4に位置し、幅約 0.6 m、長さ 2.21 m、深さ 0.06 m の溝である。南東方向から北西方向へ、調査区外へと伸びる。

6号溝状遺構（S D 6）（第8図）

S D 6はG-7に位置し、幅約 0.15 m、長さ 0.88 m、深さ 0.02 m の溝である。南西方向から北東方向へと伸びる。S D 7・8と並行する。調査区全体が削平されているため、本来は S D 7 と同一の可能性がある。

7号溝状遺構（S D 7）（第8図）

S D 7はG-6に位置し、幅約 0.17 m、長さ 0.97 m、深さ 0.03 m の溝である。南西方向から北東方向へと伸びる。S D 6・8と並行する。調査区全体が削平されているため、本来は S D 6 と同一の可能性がある。

8号溝状遺構（S D 8）（第8図）

S D 8はG-6・7に位置し、幅約 0.16 m、長さ 2.74 m、深さ 0.02 m の溝である。南西方向から北東方向へと伸びる。S D 6・7と並行する。

9号溝状遺構（S D 9）（第8図）

S D 9はF-8に位置し、幅約 0.29 m、長さ 2.28 m、深さ 0.06 m の溝である。北東方向から南西方向へ、調査区外へと伸びる。

④土坑

1号土坑（S K 1）（第9図）

S K 1はE-2に位置し、長軸 1.33 m、短軸 0.84 m、深さ 0.18 m を測る。平面形態は椭円形を呈する。覆土は1層、断面形態は皿状を呈する。

2号土坑（S K 2）（第9図）

S K 2はC-3に位置し、長軸 1.29 m、短軸 0.98 m、深さ 0.35 m を測る。平面形態は椭円形を呈する。

覆土は1層、断面形態はやや深い皿状を呈する。

3号土坑（SK 3）（第9図）

SK 3はC・D-2・3に位置し、長軸0.67m、短軸0.64m、深さ0.12mを測る。平面形態は円形を呈する。
覆土は1層、断面形態は皿状を呈する。

4号土坑（SK 4）（第9図）

SK 4はD-3に位置し、長軸0.81m、短軸0.62m、深さ0.17mを測る。平面形態は不整な円形を呈する。
覆土は1層、断面形態は皿状を呈する。

5号土坑（SK 5）（第9図）

SK 5はB-5に位置し、長軸1.04m、短軸0.94m、深さ0.16mを測る。平面形態は不整な円形を呈する。
覆土は1層、断面形態は浅い台形状を呈する。

6号土坑（SK 6）（第9図）

SK 6はB-4に位置し、長軸0.92m、短軸0.86m、深さ0.07mを測る。平面形態は円形を呈する。
覆土は1層、断面形態は皿状を呈する。

7号土坑（SK 7）（第9図）

SK 7はE-2に位置し、長軸0.61m、短軸0.42m、深さ0.16mを測る。平面形態は不整な円形を呈する。
SK 8を切っている。覆土は1層、断面形態はややいびつな皿状を呈する。

8号土坑（SK 8）（第9図）

SK 5はE-2に位置し、SK 7によって切られているため推定だが長軸0.52m～、短軸0.37m、深さ0.08mを測る。平面形態は梢円形を呈する。覆土は1層、断面形態は皿状を呈する。

9号土坑（SK 9）（第9図）

SK 9はG-5・6に位置し、長軸1.0m、短軸0.66m、深さ0.43mを測る。平面形態は隅丸の長方形を呈する。覆土は1層、断面形態は深い台形状を呈する。

10号土坑（SK 10）（第9図）

SK 10はF-6に位置し、長軸0.75m、短軸0.56m、深さ0.1mを測る。平面形態は不整な円形を呈する。
覆土は1層、断面形態は皿状を呈する。

11号土坑（SK 11）（第9図）

SK 11はB-5に位置し、調査区外に広がるため検出できた範囲で長軸0.44m、短軸0.24m、深さ0.1mを測る。平面形態は不整な円形を呈するものと思われる。覆土は1層、断面形態は皿状を呈する。

12号土坑（SK 12）（第9図）

SK 12はF-4に位置し、長軸0.95m、短軸0.68m、深さ0.33mを測る。平面形態は隅丸の長方形を呈する。覆土は2層に分層できる。断面形態は北側に段を持つ擂鉢状を呈する。

13号土坑（SK 13）（第9図）

SK 13はB-3・4に位置し、長軸2.16m、短軸1.55m、深さ0.1mを測る。平面形態は北西隅が張り出しひみの長方形を呈する。覆土は1層、断面形態は皿状を呈する。

14号土坑（SK 14）（第9図）

SK 14はF-9に位置し、長軸1.02m、短軸0.58m、深さ0.06mを測る。平面形態は隅丸の長方形を呈する。SK 15を切っている。覆土は1層、断面形態は皿状を呈する。

15号土坑（SK 15）（第9図）

SK 15はF-9に位置し、SK 14によって切られているため推定だが長軸0.9m、短軸0.44m、深さ0.2mを測る。平面形態は梢円形を呈する。覆土は1層、断面形態は南東側がやや深い皿状を呈する。

(2) 遺物

① 遺構内 (第 10 図)

遺構覆土内からは土師器破片が主に出土した。いずれも小破片であり、器形全体を復元できる資料は極めて乏しかった。今回図示できた資料の内訳は、中世の片口鉢 1 点、瓦器椀 1 点、土師器環・小皿 13 点、石鍋 1 点、古代の須恵器蓋 1 点、近世の磁器椀 1 点、陶器皿 1 点である。

1 は中世須恵器の片口鉢、S B 1 からの出土。形がいびつだが、片口鉢の口縁部と思われる。注ぎ口の破片。2 は瓦器椀の口縁部である。S K 13 からの出土。3 は土師器小皿の底部破片。S K 4 からの出土。底部は糸切り離しと思われる。4 は土師器環の底部破片。S A 9 からの出土。底部は糸切り離しと思われる。5 は土師器小皿。回転ナデと思われる調整を施す。S K 1 からの出土。6 は土師器小皿。底部は糸切り離しと思われる。P i t 47 からの出土。7 は土師器小皿。底部は糸切り離しか。板状圧痕が認められる。S B 1 からの出土。8 は土師器環。底部は糸切り離しか。底部内部が盛り上がる。S K 1 からの出土。9 は土師器小皿。底部は糸切り離し。P i t 57 からの出土。10 は土師器環か。底部は糸切り離し。S B 1 からの出土。11 は土師器環。表面の剥離が著しい。底部は糸切り離し。P i t 36 からの出土。12 は土師器環。P i t 73 からの出土。13 は土師器環。底部は糸切り離し。P i t 47 からの出土。14 は土師器環。底部は糸切り離しか。S K 13 からの出土。15 は土師器環。底部は糸切り離し。P i t 6 からの出土。16 は滑石製の石鍋の胴部破片。内面に底部の一部が残っているので、底部から胴部への立ち上がり部分と思われる。外側に縱方向のノミ削り痕が明瞭に認められる。内面には炭化物の付着も認められ、使用により平滑になっている。S K 13 からの出土。17 は須恵器蓋の破片。にぶい橙色を呈する。P i t 58 からの出土。古代の所産と思われる。18 は陶器皿の破片。色調は灰黄褐色。肥前 IV 期と思われる。S K 10 からの出土ではあるが、後世の流れ込みと思われる。19 は磁器椀の破片。わずかに染付けが残る。肥前と思われる。焼成は不良。S K 9 からの出土ではあるが、後世の流れ込みと思われる。

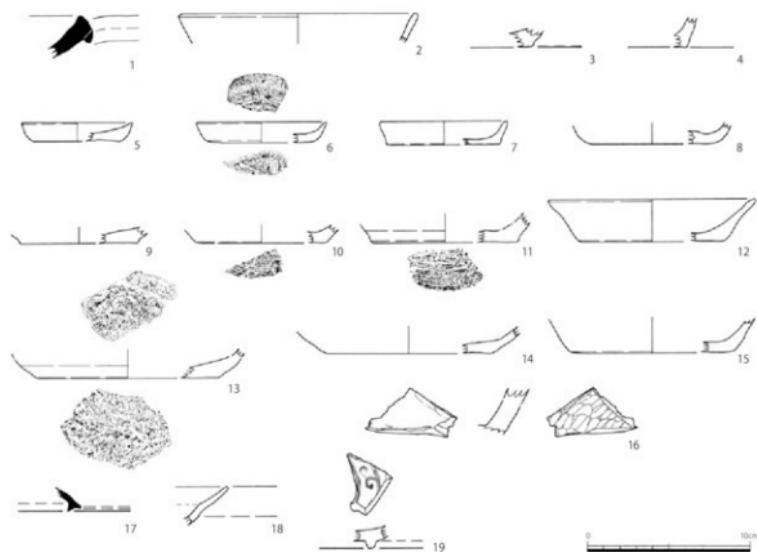
② 遺構外 (第 11 ~ 12 図)

遺構外から出土した遺物は、基本的にはグリッド単位、層位単位で取り上げたのは前述のとおりである。ここでは比較的遺存状態の良かったものを掲載した。

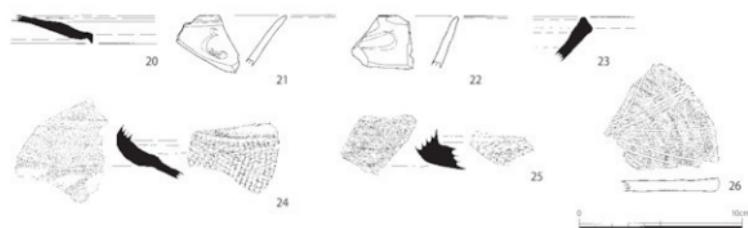
20 は須恵器蓋の破片。灰白色を呈する。回転ナデが残る。9 世紀代、古代の所産と思われる。21 は青磁椀の口縁部破片。大宰府編年で龍泉窯系 I 類。内面に雲文。22 も青磁椀の口縁部破片。大宰府編年で龍泉窯系 I 類。内面に花文。23 は中世須恵器の捏鉢の口縁部破片。東播系と思われる。24 は中世須恵器の甕の頸部破片。外側には格子目のタタキ痕が明瞭に残る。内面には横方向のハケメ痕が認められる。いわゆる桿番城窯系のものと思われる。胎土はマーブル状を呈する。25 は中世須恵器の甕の頸部破片。外側には山形のタタキ痕が明瞭に残る。内面には横方向のハケメ痕が認められる。胎土はマーブル状。いわゆる在地系のものと思われる。26 は瓦質土器。擂鉢の底部破片。内面は回転ナデのち櫛による拂り目が施される。拂り目は一單位 5 条。27 は打製石斧。試掘・確認調査時に 22 トレンチから出土。ヒン岩製と思われる。28 は黒曜石製の打製石鎚。

【引用・参考文献】

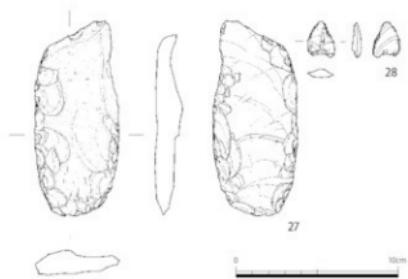
- 網田龍生 1994 「肥後における回転台土師器の成立とその背景」『中近世土器の基礎研究』X 日本中世土器研究会
太宰府市教育委員会 2000 『大宰府条坊跡 XV』
中世土器研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
美濃口雅朗 1994 「熊本県における中世前期の土師器について」『中近世土器の基礎研究』X 日本中世土器研究会
美濃口雅朗 1997 「桿番城窯跡の中世須恵器（1）」「肥後考古」第 10 号 肥後考古学会
美濃口雅朗 2007 「桿番城窯（熊本県）」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』



第10図 遺構内出土遺物実測図



第11図 遺構外出土遺物実測図1



第12図 遺構外出土遺物実測図2

第4表 週物観察表

周物名	被災地點	出土地點	層位	剖面 (cm)	断面 (cm)										
10 1 (3)		中央部	Ⅲ層												
10 2 (3)		北端	Ⅲ層	13.2											
10 3 (4)	±108	±108	Ⅲ層	0.8	(1.8)	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
10 4 (5)	±108	±108	Ⅲ層												
10 5 (5)	±108	±108	Ⅲ層	0.8	(1.8)	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
10 6 (7)	±108	±108	Ⅲ層	0.8	(1.8)	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
10 7 (8)	±108	±108	Ⅲ層	0.8	(1.8)	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
10 8 (9)	±108	±108	Ⅲ層												
10 9 (9)	±108	±108	Ⅲ層												
10 10 (9)	±108	±108	Ⅲ層												
10 11 (9)	±108	±108	Ⅲ層												
10 12 (9)	±108	±108	Ⅲ層												
10 13 (9)	±108	±108	Ⅲ層												
10 14 (9.3)	±108	±108	Ⅲ層												
10 15 (9.5)	±108	±108	Ⅲ層												
10 16 (9.3)	±108	±108	Ⅲ層												
10 17 (9.6)	±108	±108	Ⅲ層												
10 18 (9.6)	±108	±108	Ⅲ層												
10 19 (9.5)	±108	±108	Ⅲ層												
11 20 上端壁+レザード	瓦	瓦	Ⅲ層												
11 21 瓦土	瓦	瓦	Ⅲ層												
11 22 瓦土	瓦	瓦	Ⅲ層												
11 23 G.3	中央部	Ⅲ層													
11 24 瓦土	瓦	瓦	Ⅲ層												
11 25 F.4	中央部	瓦	Ⅲ層												
11 26 A.5	瓦土	瓦	Ⅲ層												
12 27 壁面+レザード(1-2)	瓦	瓦	Ⅲ層	0.8	1.0	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
12 28 瓦面	瓦	瓦	Ⅲ層	0.8	1.0	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2

第4章 総括

山下遺跡は九州横断自動車道延岡線建設工事に伴って新たに発見された遺跡である。道路建設に伴い今回発掘調査した面積は約1,700m²である。試掘・確認調査によりすでに解っていたことだが、土地の改変等によって、大きく削平を受けていたため、遺存状況はいいものではなかった。

検出した遺構は、掘立柱建物跡、柵跡、溝状遺構、土坑、ピットである。いずれの遺構も覆土は黒褐色ではあるが色調に若干の違いが認められた。各遺構は発掘調査区の北西側に集中する傾向にあるが、これは、当時の生活域が北西側にあるか、削平により南東側が消滅していることによるものと思われる。遺構の向きは、掘立柱建物を中心に東西南北を意識していることはほとんどなく、わずかに柵跡で方位の意識が看取できる程度である。溝状遺構については、明らかに現在の地形、区画を意識している。

北西側では多量のピットを検出したが、その中から、現地で掘立柱建物跡や柵跡と判断できたものは、わずかであった。現地調査時に詳細な検討を行えば、もう少し遺構数も増加するものと思われ、悔やまれてならない。

出土した遺物は、点数も非常に少なく、網コンテナで一箱に満たないものであった。遺物自体の残りも非常に悪く、摩滅しているものが極めて多い。また、器形復元できるものも少なかった。

縄文時代の石器、古代の須恵器、近世の陶磁器も数点含まれるが、わずかながら出土した遺物の多くは、中世の所産と考えられる。底部糸切り離しの土師器環・小皿が比較的多く、熊本県内でのこれまでの発掘調査事例や研究結果に照らして、概ね12世紀後半から13世紀前半に収まるものと考えている。わずかに出土した龍泉窯系I類青磁碗の破片、須恵器の捏鉢や鉢鉢の破片、いわゆる桙谷城系と推測される須恵器の破片、石鍋の破片等も土師器環・小皿と大きくかけ離れた時期のものではないと思われる。

以上、遺構の検出状況と出土した遺物の様相から考えると、山下遺跡は12世紀後半から13世紀前半の時期の遺跡と思われる。しかし、前述のとおり遺構の残りが非常に悪い。遺構内からまとまって遺物が出土することはなく、小破片が1点、2点出土するという状態であるため、なんども歯切れの悪い報告をせざるを得ない。

今回は広大な山下遺跡の一部を発掘調査したに過ぎない。今後の周辺での調査事例の増加を待ち、改めて検討したい。

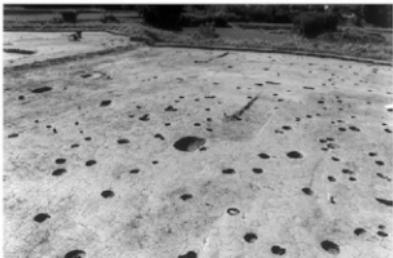
【引用・参考文献】

- 綱田龍生 1994 「肥後における回転台土師器の成立とその背景」『中近世土器の基礎研究』X 日本中世土器研究会
熊本県教育委員会 1978 「高橋南貝塚」
熊本県教育委員会 2009 「限府土井ノ外遺跡」
熊本市教育委員会 2007 「二本木遺跡群II」
熊本市教育委員会 2009 「二本木遺跡群XIII」
太宰府市教育委員会 2000 「太宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—」
中世土器研究会編 1995 「概説 中世の土器・陶磁器」真陽社
出合宏光 2000 「九州南部における平安時代の土器・陶磁器」『中近世土器の基礎研究』XV 日本中世土器研究会
出合宏光 2004 「九州南部における11～14世紀の土器」『中近世土器の基礎研究』XVII 日本中世土器研究会
文化庁編 2010 「発掘調査のてびき」同成社
美濃口雅朗 1994 「熊本県における中世前期の土師器について」『中近世土器の基礎研究』X 日本中世土器研究会
美濃口雅朗 1997 「桙谷城跡の中世須恵器(1)」『肥後考古』第10号 肥後考古学会
美濃口雅朗 2007 「桙谷城窯(熊本県)」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』

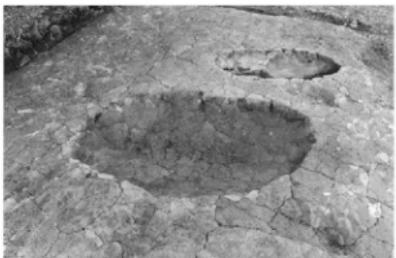
写 真 図 版



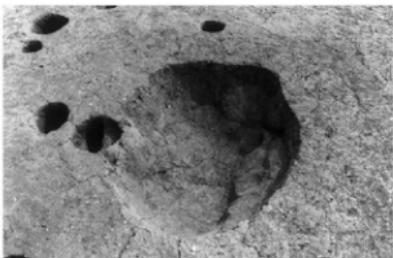
図版1 発掘調査状況(南から北)



図版2 SB1,SA5完掘状況(北東から南西)



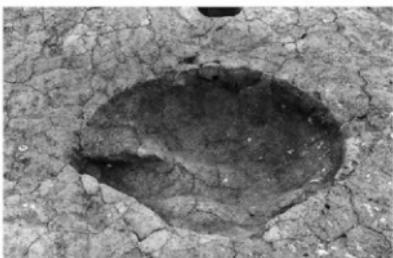
図版3 SK1・7・8完掘状況(西から東)



図版4 SK2完掘状況(北から南)



図版5 SK3完掘状況(北西から南東)



図版6 SK4完掘状況(北東から南西)



図版7 SK5完掘状況(北東から南西)



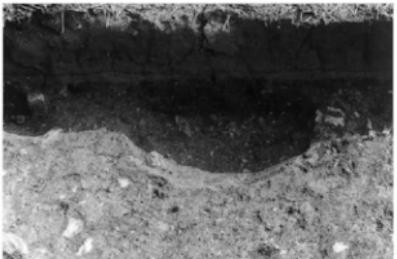
図版8 SK6完掘状況(北から南)



図版9 SK9完掘状況(南西から北東)



図版10 SK10完掘状況(南西から北東)



図版11 SK11完掘状況(北西から南東)



図版12 SK12完掘状況(西から東)



図版13 調査区完掘状況(南東から北西)



図版14 調査区完掘状況(北西から南東)



図版15 調査区完掘状況(北西から南東)



図版16 調査区完掘状況(北から南)



図版17 SK1出土遺物①



図版18 SB1出土遺物①



図版19 Pit47出土遺物①



図版20 SK4出土遺物



図版21 Pit57出土遺物



図版22 SA9出土遺物



図版23 Pit36出土遺物



図版24 SB1出土遺物②



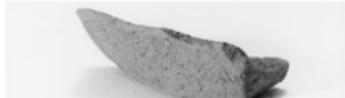
図版25 Pit47出土遺物②



図版26 SK1出土遺物②



図版27 SK13出土遺物①



図版28 Pit6出土遺物



図版29 Pit73出土遺物



図版30 SK13出土遺物②



図版31 遺構外出土遺物①



図版32 遺構外出土遺物②



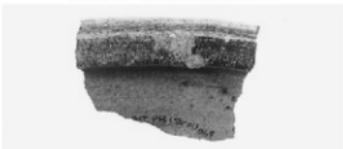
図版33 遺構外出土遺物③



図版39 遺構外出土遺物⑦



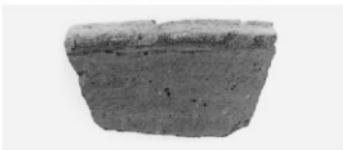
図版40 Pit58出土遺物



図版34 SB1出土遺物③



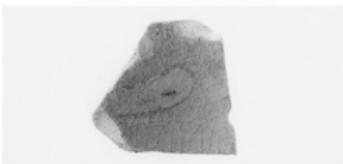
図版41 SK10出土遺物



図版35 遺構外出土遺物④



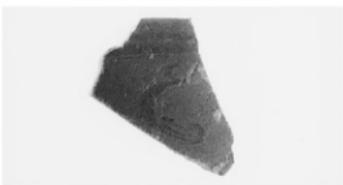
図版42 SK9出土遺物



図版36 遺構外出土遺物⑤



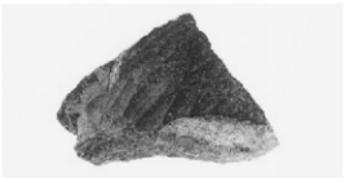
図版43 遺構外出土遺物⑧



図版37 遺構外出土遺物⑥



図版44 遺構外出土遺物⑨



図版38 SK13出土遺物③

あとがき

山下遺跡の発掘調査報告書が完成しました。

発掘調査から整理報告書作成にあたっては、多くの方々にお手伝いいただきました。

平成20年の現地での発掘調査も、平成22年の文化財資料室での整理作業も、なぜか同じようなすさまじい酷暑の中でおこなわれました。

そのような厳しい環境の中で、本報告書を刊行することができたのは、皆様のおかげであると考えております。本当にありがとうございました。

ここにお世話になりました皆様のお名前を記して、感謝の意を表したいと思います。

発掘調査

上野宏二、杉浦千枝子、田畠エイ子、中村 強、廣常維則、松岡 洋、森上美和子、守田元光、山下民生
(以上、敬称略・五十音順)

整理報告書作成

浦田和恵、河津洋怜、木村美和子、中島ひろみ、中村公光子、西坂和美、山内洋子、山下千栄子
(以上、敬称略・五十音順)

平成23年春 編集記

報告書抄録

平成23年3月31日 印刷

平成23年3月31日 発行

山 下 遺 跡

熊本県文化財調査報告第260集

国土交通省九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

編集・発行 熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市水前寺6丁目18番1号

印刷 (有)ソーゴーグラフィックス

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 260 集を底本として作成しました。
閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用
してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図
書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用
方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 山下遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL : <http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日